

令和7年12月17日

報道機関各位

一般財団法人リモート・センシング技術センター

2025年度「坂田俊文賞」を受賞

（地独）北海道立総合研究機構（道総研）では、一度に広範囲を観測可能な人工衛星によるリモートセンシング（遠隔探査）が、広大な大地をもつ北海道に重要な技術と捉え、特に昼夜・天候の影響を最小限に抑えられる合成開口レーダ（SAR）の応用研究に取り組んできました。

このたび、当研究所の宇佐見星弥研究職員が取り組んできた、**SARを応用した土砂災害予測に関する研究成果**が、（一財）リモート・センシング技術センターが**2025年度より新たに設立した「坂田俊文賞」**を受賞しました。

※令和7月11月7日にアルカディア市ヶ谷私学会館にて表彰式が行われました。（次項写真）

■「坂田俊文賞」について

故坂田俊文東海大学名誉教授は、1960年代から衛星によるリモートセンシング技術の重要性に着目し、衛星画像を用いた地球環境監視や災害対応など多岐にわたる分野で研究を牽引してこられました。また、一般財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC）の設立に際しても中心的な役割を果たされました。

「坂田俊文賞」は、RESTECが2022年度から実施している「RESTEC研究助成」に採択された研究者のなかで、特に優れた成果を挙げた研究者を顕彰するため、2025年度より新たに設立された賞です。

■ 受賞者および受賞対象の研究課題

《受賞者》

産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所 地域地質部 地質防災グループ
研究職員 宇佐見 星弥（うさみ せいや）

《RESTEC研究助成を受けた研究課題》

2022年度RESTEC研究助成

「積雪がD-InSAR解析による地表変動量の計測精度に及ぼす影響の解明」

■ 受賞者のコメント

このような賞を賜り、厚く御礼申し上げます。本研究課題は、道総研として初めて地すべりに衛星SARリモートセンシングを適用した研究であり、現在取り組んでいる道総研の経常研究や科研費などの外部資金研究の礎となっています。昼夜・天候を問わず面的観測が可能なSARは、社会に不可欠な技術になることが期待されます。今回の受賞を励みに、今後もSARを活用した土砂災害予測の研究開発に邁進してまいります。

《表彰式の様子》



表彰状授与式



(右) 池田 要 RESTEC 理事長
(左) 長 幸平 審査委員長 (東海大学特任教授)
(中央) 宇佐見 研究職員

■ 同時配付先：道政記者クラブ、教育記者クラブへ同時配付

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研）産業技術環境研究本部
エネルギー・環境・地質研究所(エネ環地研) 研究推進室 研究情報グループ（担当：小松）
電話 011-747-2427 Eメール eeg-koho@ml.hro.or.jp